

平成 24 年 市職員への年頭訓示

みなさん、新年明けましておめでとうございます。

新しい年の幕開けをみなさんもそれぞれ、清々しい気持ちで迎えられたことと思います。

木津川市は、今年、市制5周年を迎えますとともに、学研都市、木津中央地区の「街開き」を迎えます。木津川市の中心に位置する木津中央地区には、計画戸数 3,800 戸、計画人口 11,000 人の街を整備する計画です。

合併後に市の人口は、合併時の 66,490 人から、71,523 人にまで増加いたしました。この木津中央地区の整備によりまして、木津川市の更なる飛躍、学研都市の東の核になるよう繋げるとともに、活気ある木津川市を実現してまいりたいと考えております。

人口増は、喜ばしいことではありますが、これに甘んじることなく、市制施行5周年という節目を契機として、ますます市の魅力を高め、「住みたい住み続けたい」と思っていただけまちづくりの実現に向けまして、邁進してまいりたいと考えております。

さて、昨年を振り返りますと、東日本大震災と、それに起因する原子力発電所の事故、また、奈良県と和歌山県において、台風12号がもたらしました記録的豪雨など、歴史的な大災害に見舞われた1年でありました。

本市では、いち早く被災地に対し人的・物的支援を行いました。なかでも職員のみなさんが、自ら手を挙げ、支援活動に参加いただいたことは、大変有難く感謝いたしております。

支援活動に参加した職員からは、被災された方々から感謝されるとともに、逆境にあつて、たくましく立ち直ろうとされている被災者の姿から逆にパワーを与えていただき、公務員としてのあり様を教えられた。との報告を受けております。

このような経験は、今後、起こりうる自然災害に対して活かせる、生きた知識として蓄積されたのではないのでしょうか。

また、被災地へ、世界中から支援や応援のメッセージが寄せられたことは、私たち日本人が、世界の人々とのつながりを実感し、一人ではないと実感することができたのではないのでしょうか。

併せて、全国の地方自治体からの活動支援はもとより、市民ボランティアの力は、被災地に大きな勇気を与え、心の支えになったことでしょう。

「禍福は糾える縄の如し」、災禍の中で、人は人に支えられ、助け合うことで、強い

絆が生まれました。

この絆が、災禍を乗り越える力となり、今年は穏やかで、幸多い年になることを願ってやみません。

次に、世界的な金融危機の再来の懸念から円相場が大きく円高に進み、日本経済に大きな影を落としています。

このことから、本市におきましても、今後、税収が落ち込み、財政状況も厳しさを増してくることが予想されるなかであり、クリーンセンターの建設や既存の小中学校の耐震補強など大規模事業に取り組まなければなりません。

「待てば甘露の日和あり」の言葉もありますが、今、地方自治体は、待つことや立ち止まることが許されない現況であると言えます。職員自らが、なお一層の事務事業の整理や合理化に取り組み、市の財政状況を意識しつつ、事務の効率化を進める不断の努力が求められております。

「子や孫の世代に健全財政のまち」を引き継ぐためにも、更なる行財政改革に取り組み、市民の皆様の負託に応えていただきたいと 思います。

そのためには、職員のみなさんも一人ひとりが、自覚と責任を持って、それぞれの部署で、日々、努力してください。

市制5周年を迎える今年も、職員のみなさんと一緒に力を合わせて頑張ってまいりましょう。

結びに、今年がみなさんにとりまして幸多い年でありますように、そして、木津川市の更なる飛躍を祈念いたしまして、年頭の訓示といたします。

平成24年1月4日

木津川市長 河井 規子